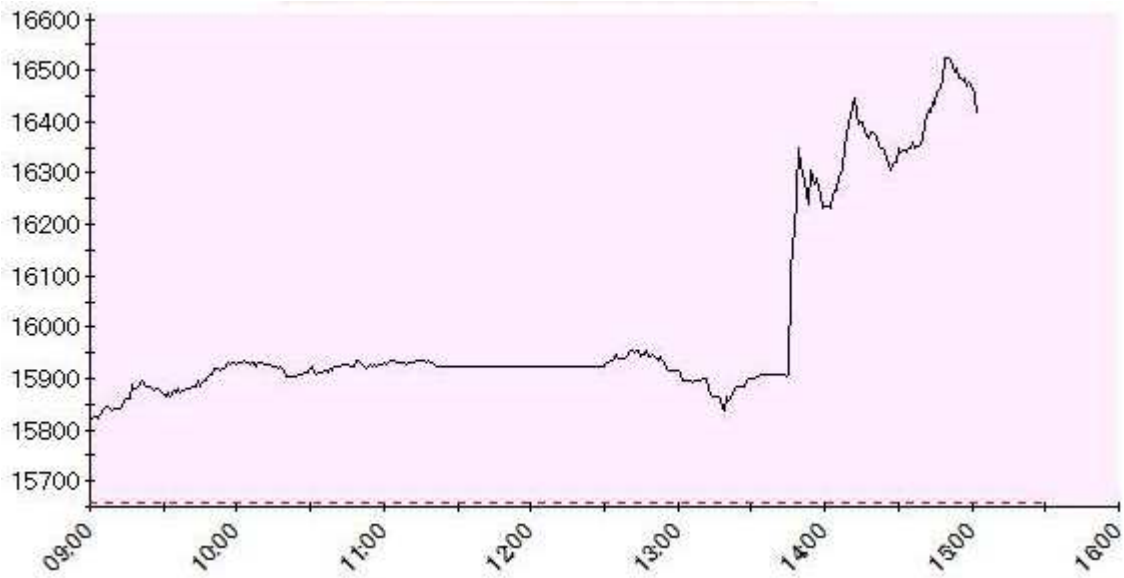
商品市況展望

平成 26 年 11 月 2 日記

日銀バズーカ炸裂！



これは 10 月 31 日の日経平均株価の動きだ。13 時半過ぎに日銀による予想外の追加金融緩和 10～20 兆円規模の発表で、一気に 500 円跳ね上がったわけである。その後も株価は押し目を入れながら続伸し、年初来高値を更新。更に**週末のシカゴ日経平均先物では 17,070 円（大証終値比 580 円高）と更に高騰している。**

人為的な相場である事は事実だが、こうなると行くところまで行かないとおさまりは付かないだろう。この日は“日銀バズーカ 2”の他にも、**公的年金の積立金を運用している GPIF＝年金積立金管理運用独立行政法人が、国債など国内債券の運用比率を引き下げる一方、国内株式と外国株式の割合を現在の「12%」から「25%」に引き上げる**などとした新たな運用方針を決めており、これも株式市場の需給関係を一気に好転させた模様だ。

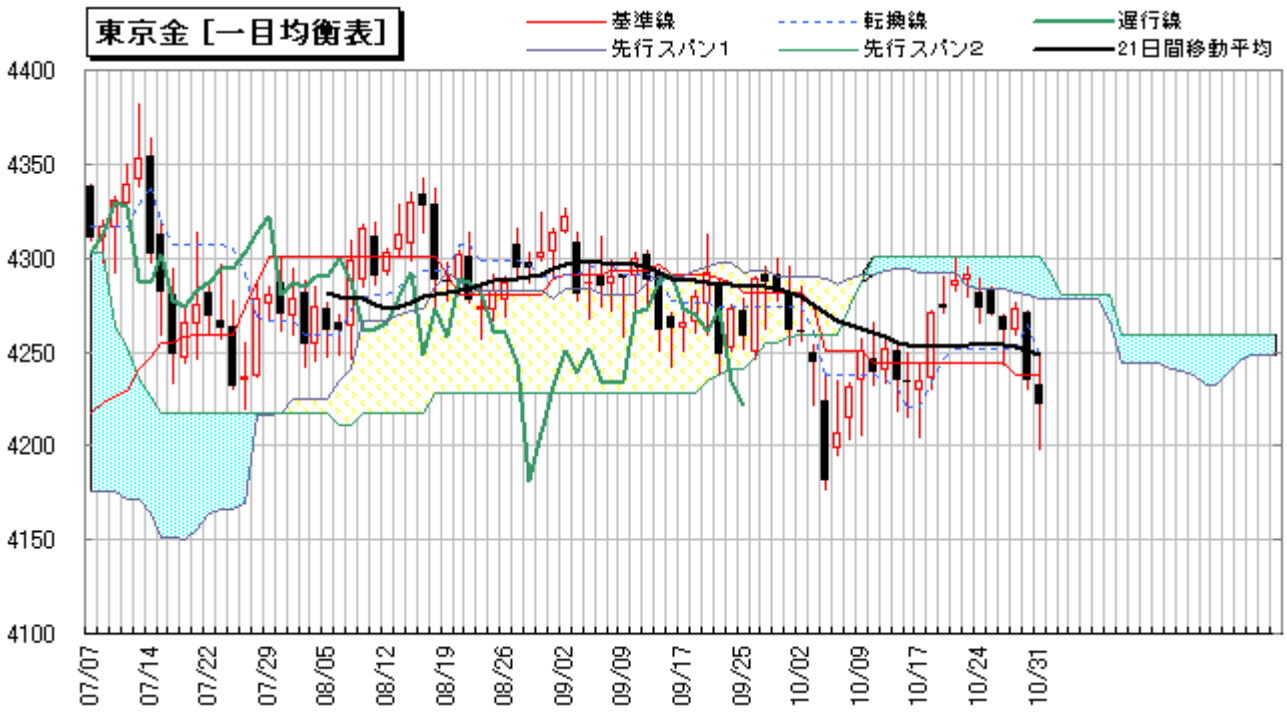
何が何でも株価を上げてアベノミクスを成功せさせようという政府･日銀の姿勢には逆らえまい。ジョージ・ソロスやジム・ロジャースなどの世界の著名な投資家達も、日銀だけには逆らっちゃいけないとかつて言っているわけで、これに逆らうのは無謀だ。

株価が高騰する中で、**ドル/円相場は急激に円安が進んで現在は 112 円台だ。**これも 6 年 10 ヶ月ぶりの水準だ。おそらく 110 円以下は用済みであり、115 円辺りを目指すのではあるまいか。

だが一方で、それでも金は上がらない。と言うか、株が高くてドルも強いのならば、金に投機資金は流れない。今年の相場は「**商品売りの株買い**」であるとずっと言い続けているわけだが、その見方は変わらない。

さて「株価だけが上がっても実体経済は･･･」と言う人は必ず居るだろうが、相場をしている者にとっては価格変動が全てであり、それこそが実体だ。当たれば実際にカネが入るし、負ければ実際にカネがなくなるのだからね。

〔貴金属〕



今週の金の値動き

	10 月限（当限）	前日比	8 月限（先限）	前日比
10 月 27 日	¥4,271	−1	¥4,270	−2
10 月 28 日	¥4,253	−18	¥4,261	−9
	12 月限（当限）	前日比	10 月限（先限）	前日比
10 月 29 日	¥4,273	14	¥4,273	
10 月 30 日	¥4,235	−38	¥4,232	−41
10 月 31 日	¥4,226	−9	¥4,222	−10

金相場は、先週号においては『現状の 4,300 円近い水準は売り場であると見る。相場は早晩崩れ出すだろう。しかし 4,300 円突破ならば、逆に売り方針撤退も視野に入れる』とコメントした。

今週の相場展開は、**4,300 円を抜けきれずにチャートどおりに反落**。週末は株価急騰、大幅円安の進行に逆行するように下落し、一時は 4,200 円を割り込んだ。

その後の**夜間取引でも一時は 4,184 円まで続落**したが、さすがにドルベースの金の下落よりも為替の円安の力が大きく 4,226 円まで戻して引けている。

為替相場は 115 円辺りまで円安になると思っているが、ドルベースの金価格は現在 1170 ドル台と 1200 ドルを割れてこのところの安値を更新中だ。仮にあと 3 円円安が進んでも、1100 ドルまで金が下落したとしたら換算値は･･･

1100 ドル×115 円÷31.1035＝4,067 円である。上がりはしない。

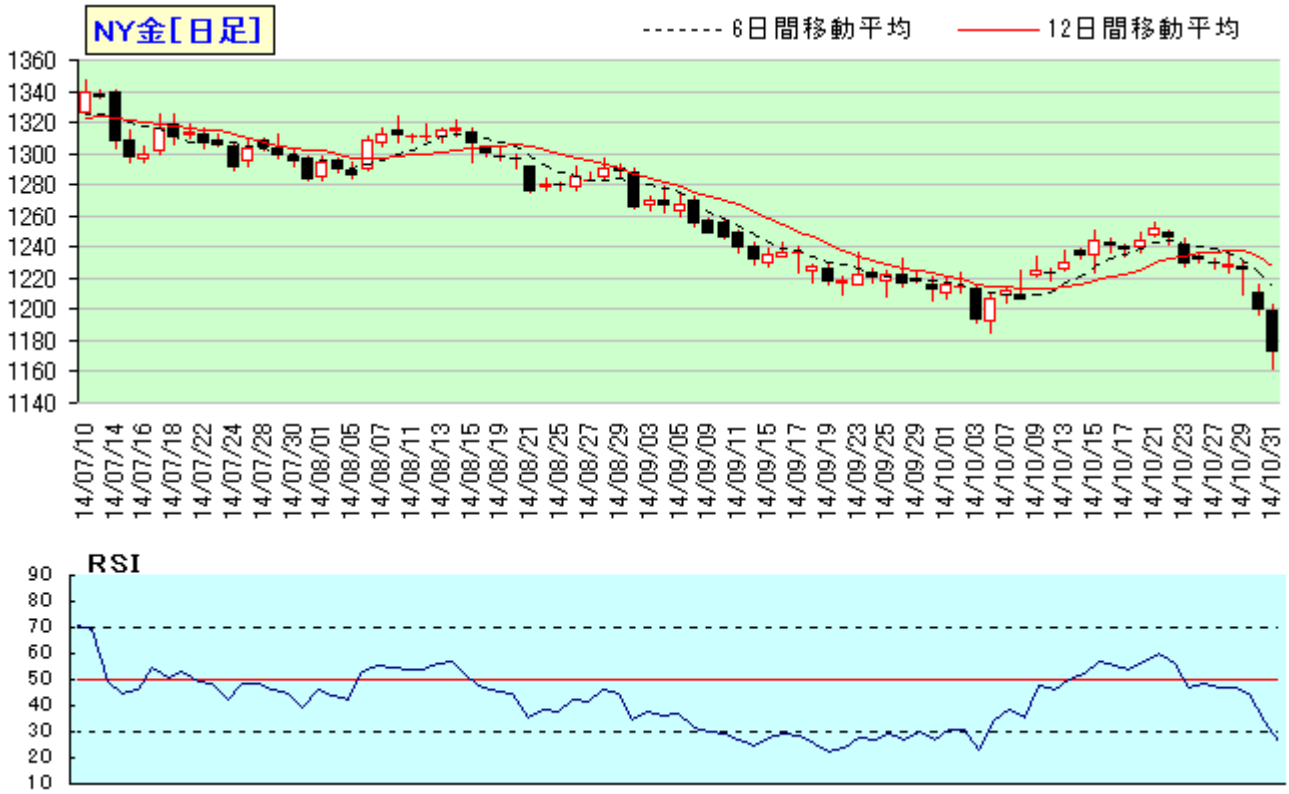
プラチナを始めとして原油・石油製品、ゴム、穀物など先に暴落した他の商品は、すべて全限一代安値を更新した後に今は反騰に入っている。金だけは大して下がりもせず、まだ中物～期近限月は更新していない。**大体、上記の価格まで下落すればほぼ全限一代安値を更新する**わけであり、そこまで行って初めて他商品の様に反発に転じるのでは？というのが当方の意見だ。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京金一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2014 年 10 月	¥4,254	10 月 29 日	¥4,538	3 月 13 日	¥4,001	12 月 5 日	**¥4,253**
2014 年 12 月	¥4,039	12 月 25 日	¥4,540	3 月 13 日	¥4,030	12 月 26 日	¥4,226
2015 年 2 月	¥4,409	2 月 26 日	¥4,545	3 月 13 日	¥4,077	6 月 2 日	¥4,236
2015 年 4 月	¥4,251	4 月 25 日	¥4,379	7 月 11 日	¥4,075	6 月 2 日	¥4,234
2015 年 6 月	¥4,320	6 月 26 日	¥4,382	7 月 11 日	¥4,177	10 月 6 日	¥4,225
2015 年 8 月	¥4,307	8 月 27 日	¥4,324	8 月 29 日	¥4,176	10 月 6 日	¥4,224
2015 年 10 月	**¥4,261**	**10 月 29 日**	**¥4,276**	**10 月 29 日**	**¥4,197**	**10 月 31 日**	¥4,222

発会したばかりの先物だけは、11/4 付となる週末の夜間取引で 4,184 円と安値更新である。



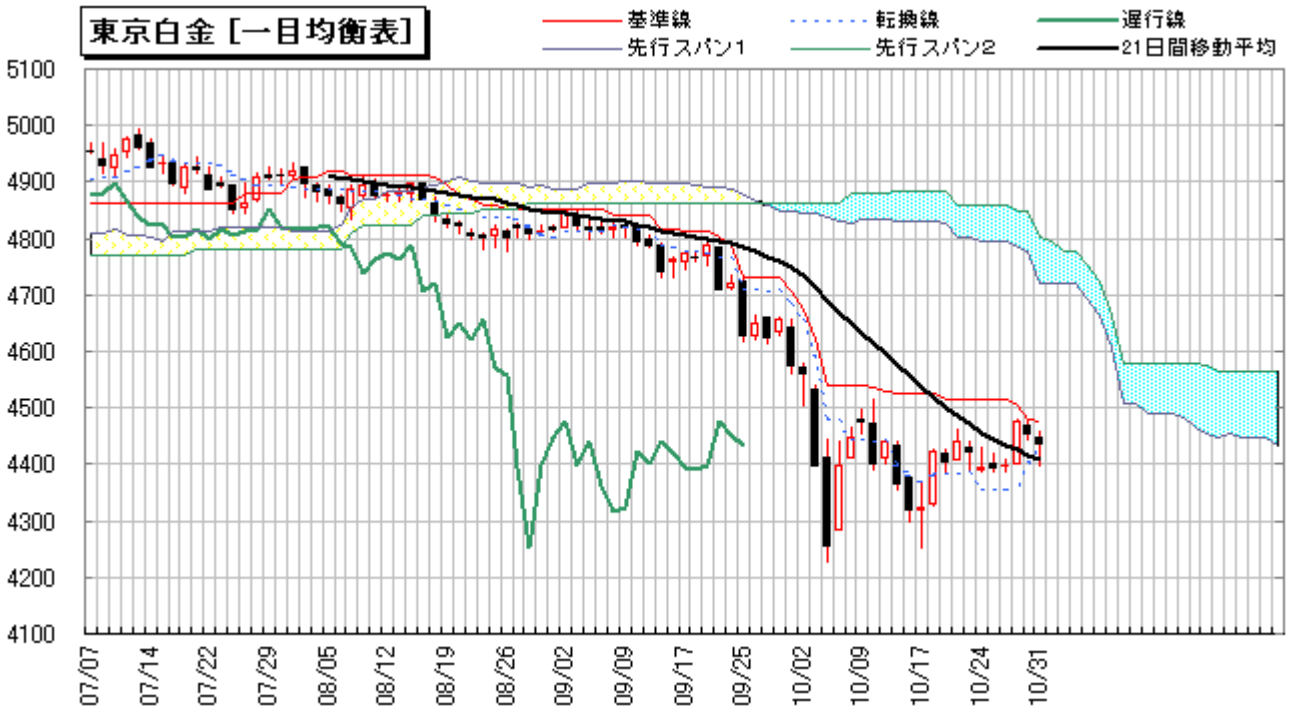
週末 10/31 の NY 市場は、前日比 27.0 ドル安の **1171.6 ドル**。再び 1200 ドルを割れた相場は、**1160.5 ドルの安値まで記録**である。もちろん安値更新だ。

チャートでは、倍返しの下げなら 1100 ドル辺りが目標になる。それが前述の 1100 ドル目標の根拠である。

CFTC 発表の **10/28 現在のファンドのポジション**は、前週比 7,300 枚減の 10 万 700 枚のロング。**5 週ぶりの減少**である。しかし急落は 30 日、31 日であり、もっと減っているだろう。

10/31 現在での ETF 残高は、1090.22 トンと前週比 9.25 トン減である。**また大きく減少した。**

結論として当方の相場観は、戻り売り相場に変化無しである。下げるのはこれからだろうと読む。



今週のプラチナの値動き

	10 月限（当限）	前日比	8 月限（先限）	前日比
10 月 27 日	¥4,350	−9	¥4,392	−5
10 月 28 日	¥4,356	6	¥4,400	8
	12 月限（当限）	前日比	10 月限（先限）	前日比
10 月 29 日	¥4,436	64	¥4,475	
10 月 30 日	¥4,414	−22	¥4,452	−23
10 月 31 日	¥4,408	−6	¥4,435	−17

プラチナ相場は、先週号においては『相場は目先は三角持ち合いに入るだろう。美味しい相場は終了したものと考えている』とコメントした。

今週の相場展開は、**4,400 円台でのもみ合い相場に終始**。予想通りに面白くない相場展開となった。

週末の夜間取引では、金が一時安値を記録する中で、プラチナは逆に 4,498 円まで 63 円も上がっての終了である。NY プラチナは上げているわけではないが、金の半分以下の下げだったところに 112 円台まで進んだ為替の円安が材料となり、逆に戻した格好である。

4,500 円台に明確に乗せてこないとチャートは好転しないが、ゴムのような例もある事で、もう売るのも買うのもしばらくは休憩である。

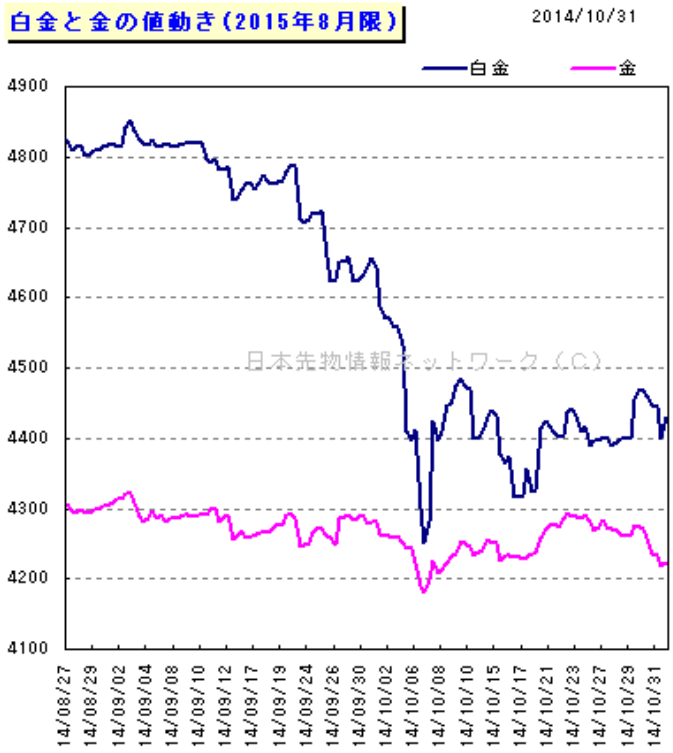
金が大して動かなかった中で、600 円も一気に暴落し、300 円戻してまた 300 円下がる、という延 1,200 円の変動を短期間にした相場だ。これは 1 枚辺り 60 万円動いたという事であり、美味しいところは出し尽くした。出がらしになってもしょうがあるまい。そんなもんだ。

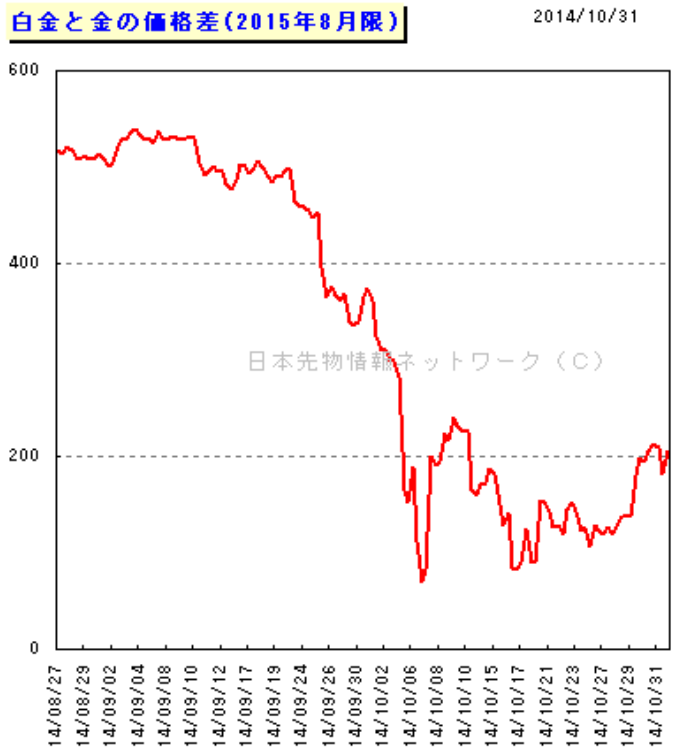
なお一代の動きは以下のとおり。

東京プラチナ一代の動き

	始値		高値		安値		現在値

2014 年 10 月	¥4,648	10 月 29 日	¥4,968	1 月 21 日	¥4,201	10 月 6 日	**¥4,356**
2014 年 12 月	¥4,540	12 月 25 日	¥4,984	1 月 21 日	¥4,205	10 月 6 日	¥4,408
2015 年 2 月	¥4,779	2 月 26 日	¥4,975	7 月 3 日	¥4,199	10 月 6 日	¥4,410
2015 年 4 月	¥4,698	4 月 25 日	¥4,988	7 月 3 日	¥4,207	10 月 6 日	¥4,423
2015 年 6 月	¥4,847	6 月 26 日	¥4,994	7 月 3 日	¥4,218	10 月 6 日	¥4,426
2015 年 8 月	¥4,825	8 月 27 日	¥4,851	9 月 2 日	¥4,225	10 月 6 日	¥4,431
2015 年 10 月	**¥4,399**	**10 月 29 日**	**¥4,478**	**10 月 29 日**	**¥4,393**	**10 月 31 日**	¥4,435



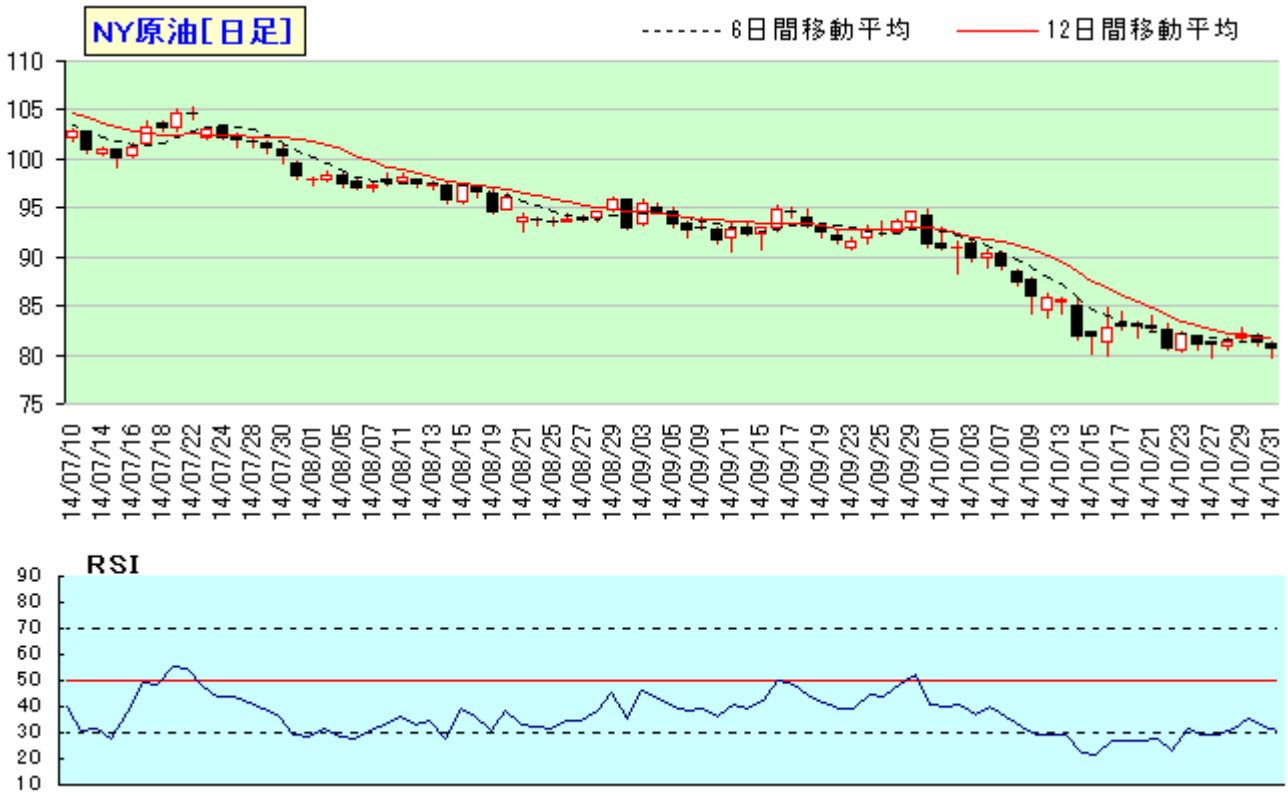


週末現在のサヤは、4,435 円（プラチナ）－4,222 円（金）＝213 円。夜間取引ではもっと広がっている。

今後は、株価の大暴落などが無い限りは、サヤの縮小傾向は終了したと見ておくのが良いだろう。0 以下に逆転することは現在想定できず、200～400 円の間での推移が妥当なのではないかと見ている。

結論として当方の相場観は、戻るも良し。下がるも良しである。今はしばらく様子見をする時間帯であろう。手出しする場面ではないと見ている。

〔原油・石油製品〕



まずは原油から…

先週号においては『戻り売り方針に変化無し。初戻りは売りの格言を信じる』とコメントした。

今週の相場展開は、NY **原油は**週末 31 日で前日比 0.58 ドル安の **80.54 ドル**での終了。**安値は 79.55 ドル**まであり、軟調な展開が続いている。

RSI チャートは、相変わらず 30 ポイントを挟んだ推移である。80 ドル辺りでのもみ合いの状況だが、NY 市場でも株価が史上最高値を更新する中で、原油は軟調だ。

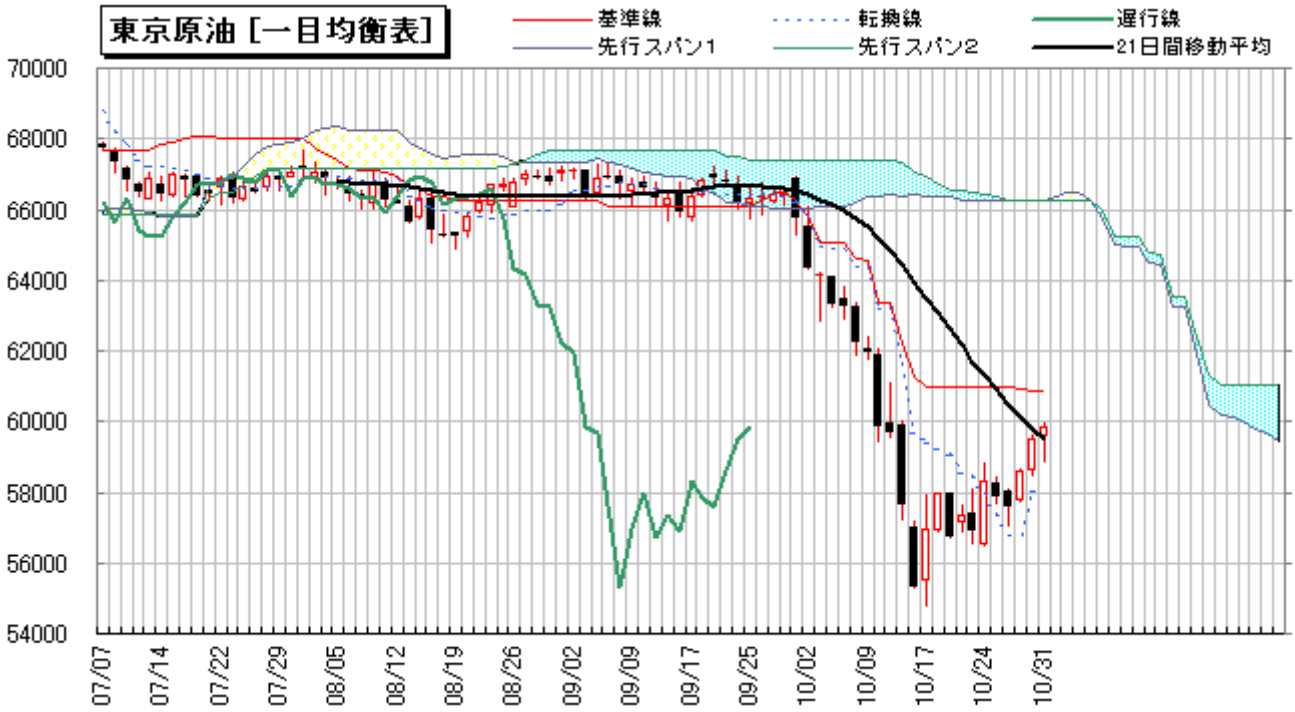
金と同様にドル高は弱材料であるが、それ以上にこのところは①中国、インドの需要低迷　②サウジアラビアの輸出価格の引き下げ　③イラクの増産　などといった弱材料も出ている状況だ。

現在の産油コストは 90 ドル超と言われるものも多いわけだが、**ではこの原油価格の下落で一番困るのはどこか？　答えは南米ベネズエラやロシアである**。米国のシェールオイルも高コストだが、もしも米国がプーチン・ロシアに圧力を掛けようとするのならば、またイスラム国に圧力を掛けようとするのならば、肉を切らせて骨を断つ原油価格下落作戦は効果的だ。水面下ではそういう綱引き・かけ引きが行われているのではないかと想定している。そうでなければ、今の原油価格の下落は、表面に出ている弱材料だけでは説明が付けづらい。

また CFTC のファンドの建玉報告は、10/28 現在で前週比 1 万 2,800 枚減の **26 万 7,300 枚のロング**。先週は **18 週ぶりに僅かに増加したが、今週はまた減った**。減っては居るが、過去の水準

から考えれば**20万枚以下になって初めて買い越しは大きく減少したと言えるレベル**であり、まだまだ高水準の買い越しであると言える。

さて一体、誰が買っているのか？　買っている人がいれば、売っている人も居るのが相場であり、売り方は間違いなく利が乗っている。買い方は損をしている。それならば、苦しい買い方の足を引っ張って殺してしまおう･･･と言うのが相場の世界だ。そういうのもあると想像している。



今週の東京原油の動き

	10月限(当限)	前日比	3月限(先限)	前日比
10月27日	¥58,820	20	¥57,880	-480
10月28日	¥58,700	-120	¥57,590	-290
10月29日	¥58,750	50	¥58,610	1020
10月30日	¥58,870	120	¥59,540	930
10月31日	**¥58,890**	20	¥59,860	320

NY原油は軟調だが、**東京原油は今週も反騰である**。やっと6万円に届こうかというところまで戻っており、先物だと安値から5,000円戻したわけだ。

先週号でも「**67,000円を中心にもみ合っていた値位置からは12,000円以上暴落し、やっと3分の1戻しをしたかというところ**。半値戻しなら6万円乗せであり、それは厳しいかもしれないが、あったら美味しい初戻りの水準という事になるのではないか？」としたが、円安によって夜間取引で3月限は60,570円まで戻している。また先物4月限発会は60,080円で始まり、**60,910円まで戻している**。

週末までの戻りは、最後のダメ押しの2日分の暴落分を回復したところであり、そこは夜間でクリアしてしまっているものの、**62,000円が次の長い陰線の上限である**。**時間を掛けて戻した相場であるが、「初戻りは売り」という格言通りの相場が来るのならば、ここからが売り場であ**

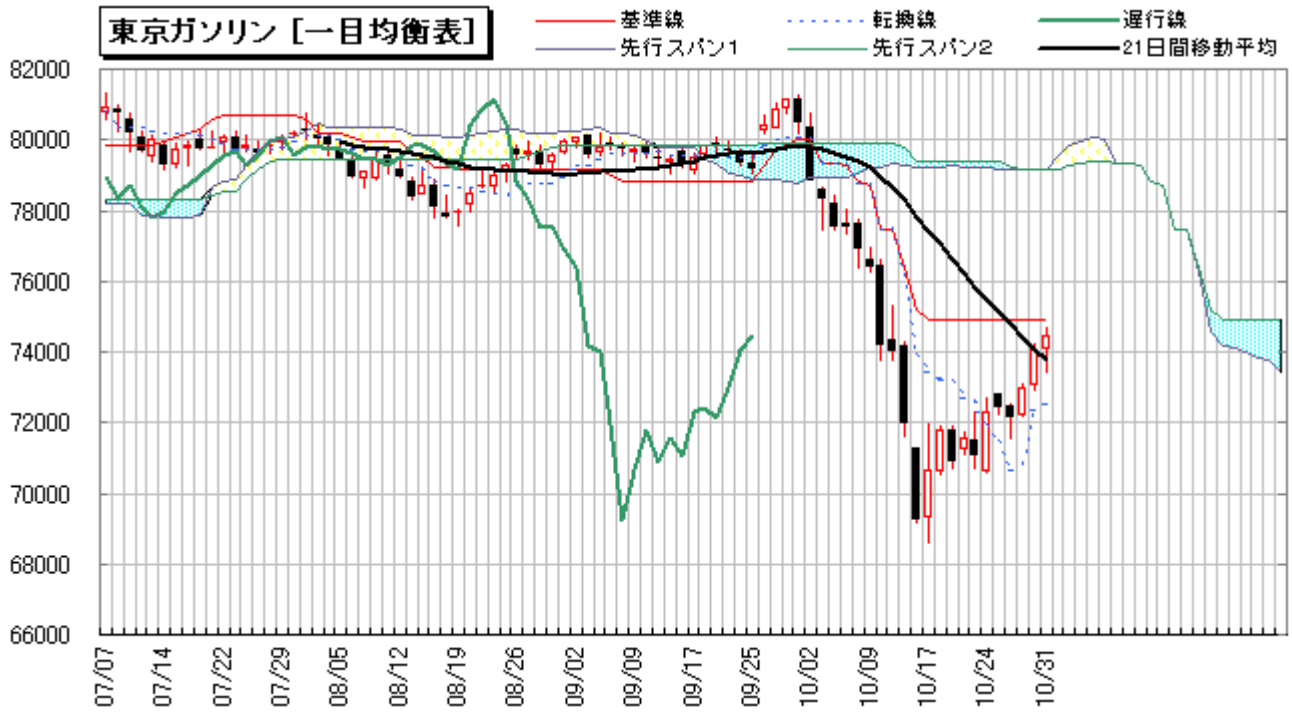
ろう。もちろん円安も怖いし、「半値戻しは全値戻し」という格言もあるゆえ、来週下がらなければ売りは撤退かもしれないが、一度はここで売ってみたいと思うところである。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京原油一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2014 年 10 月	¥65,460	5 月 1 日	¥70,240	6 月 23 日	¥57,700	10 月 16 日	**¥58,890**
2014 年 11 月	¥65,720	6 月 2 日	¥69,950	6 月 24 日	¥54,060	10 月 17 日	¥58,370
2014 年 12 月	¥67,710	7 月 1 日	¥68,230	7 月 2 日	¥53,390	10 月 17 日	¥58,810
2015 年 1 月	¥66,850	8 月 1 日	¥67,320	8 月 1 日	¥54,360	10 月 17 日	¥59,240
2015 年 2 月	¥66,970	9 月 1 日	¥67,330	9 月 5 日	¥54,520	10 月 17 日	¥59,600
2015 年 3 月	¥66,860	10 月 1 日	¥66,930	10 月 1 日	¥54,750	10 月 17 日	¥59,860

結論として当方の相場観は、来週の高値は売り場であると見ている。ただし週末になっても下がっていない様であれば、すぐに考えを変える事も有り得るが、今は“初戻りは売り”を信じてみたい。



今週のガソリンの値動き

	12 月限(当限)	前日比	5 月限(先限)	前日比
10 月 27 日	¥71,320	−280	¥72,340	
10 月 28 日	¥70,920	−400	¥72,100	−240
10 月 29 日	¥71,820	900	¥72,980	880
10 月 30 日	¥72,850	1030	¥74,050	1070
10 月 31 日	¥73,180	330	¥74,500	450

先週号においては『74,000 円台を超えていける相場とは思えない。引きつけて初戻りを叩く先方が良いだろう。戻り売り方針である』とコメントした。

今週の相場展開は、先物 5 月限は **74,660 円（10/31）**の高値まで戻した。更に夜間取引でも続伸した相場は、**74,920 円まで記録**している。

さすがに 112 円台まで進んだ円安により、想定よりも若干大きな戻りとなってしまった。それでも株価の急騰に比べれば大したことはないし、大暴落をした最後の 3 日分程度を時間を掛けてやっと戻しただけである。下落スピードは、上昇スピードよりも圧倒的に速い！

“初戻りは売り”の格言が生きているならば、ここから売りであろう。国内市場は 3 連休中なので連休明けの相場にはもう一日分の外電が入るためどうなっているか不明だが、連休明けの情勢次第ではそこが売り場になるだろう。

なお一代の推移は、以下のとおり。

東京ガソリン一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2014 年 12 月	¥78,120	5 月 26 日	¥82,320	6 月 23 日	¥67,320	10 月 17 日	¥73,180
2015 年 1 月	¥81,130	6 月 26 日	¥81,300	7 月 7 日	¥66,590	10 月 17 日	¥72,360
2015 年 2 月	¥79,770	7 月 25 日	¥80,760	7 月 31 日	¥66,690	10 月 17	¥72,340

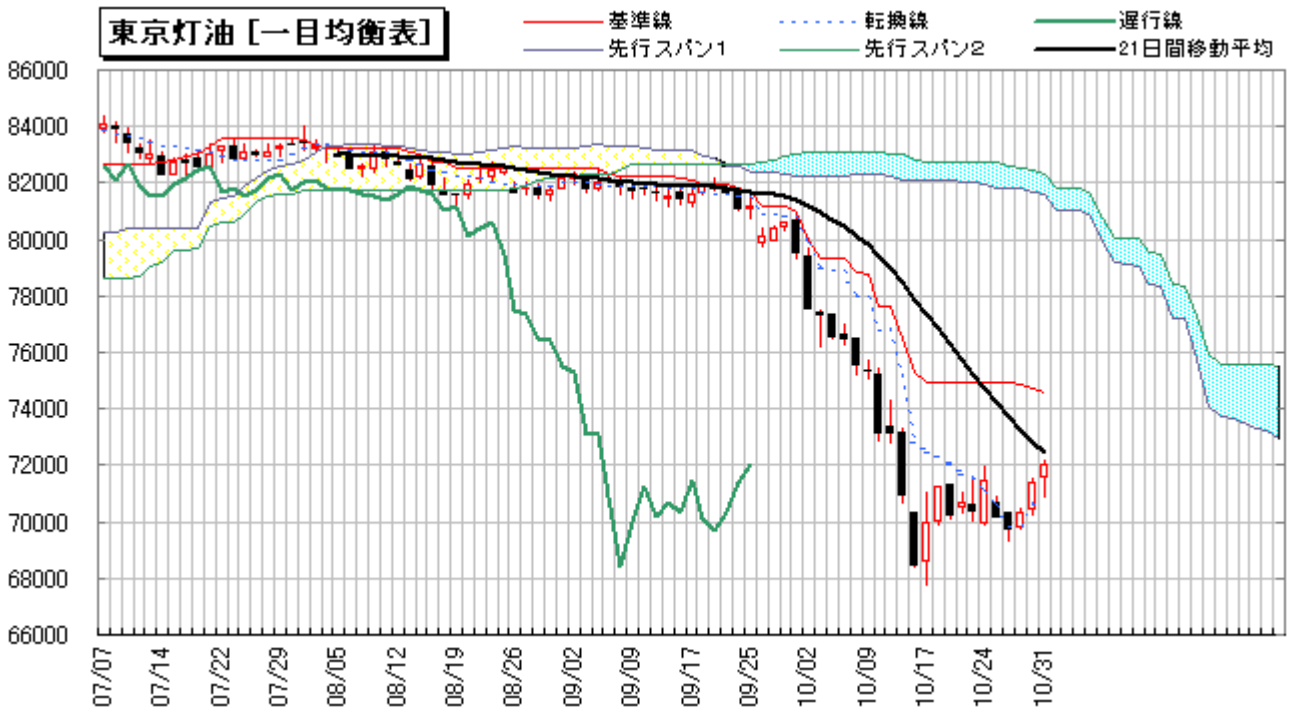
						日	
2015 年 3 月	¥79,750	8 月 26 日	¥80,160	9 月 4 日	¥67,110	10 月 17 日	¥72,630
2015 年 4 月	¥80,240	9 月 26 日	¥81,250	10 月 1 日	¥68,550	10 月 17 日	¥73,860
2015 年 5 月	**¥72,800**	**10 月 27 日**	**¥74,660**	**10 月 31 日**	**¥71,500**	**10 月 28 日**	¥74,500

10/31 現在の業者間転売価格は、74,500 円（税抜き）**と前週比 500 円安**。スポット価格は 5 週連続安であるが、これでやっと先物市場の価格に接近した情勢である。先物の下げのスピードに追いつかず、先物が反発してやっと並んだ格好なわけだ。

10/25 現在のガソリン在庫は、前週比 **3.5 万 kl 増の 171.6 万 kl。前年同期比では 16.5 万 Kl 少ない水準**である。

前年同期比で在庫は少ないものの、異常な低水準とまでは言えない量である。つまりは需給関係が強材料とはなりづらい模様であり、大元の原油価格が反騰に転じない限りはガソリンの上値も知れていると考えるのが妥当だろう。

結論として当方の相場観は、戻り売りのポイントに差し掛かった相場であろう。初戻りは売りの格言通りならば、次は 2 番底を目指す相場となるだろう。



今週の灯油の値動き

	12 月限（当限）	前日比	5 月限（先限）	前日比
10 月 27 日	¥73,440	−560	¥70,150	
10 月 28 日	¥73,060	−380	¥69,680	−470
10 月 29 日	¥73,970	910	¥70,300	620
10 月 30 日	¥74,990	1020	¥71,430	1130
10 月 31 日	¥75,180	190	¥71,980	550

最後に灯油です…

先週号においては『幾ら戻しても半値戻しは困難だろう。戻り売りの好機が接近していると考えており、今後は 2 番底を取りに行くものと考えている』とコメントした。

今週の相場展開は、週明けに発会した **5 月限は 69,720 円（10/28）→72,140 円（10/31）まで 2,420 円の急騰**。既存の先物だった **4 月限も安値からは 5,000 円ほど戻した**展開だ。

もっとも短期間で 13,000 円も下げた相場である。灯油は季節習性から逆ザヤ相場となっているため、これでも半値戻しにも届かない。**時間を掛けて反発しているが、暴落時にダメ押しの最後の陰線 2 本分にも足りていない情勢でもある。**

下げ時点では、相対力指数＝RSI が一桁台という仕手崩れ相場のような異常値を出していたわけで、戻りもなく下がるだけでは相場にはならぬ。つまり普通の相場のように戻りが出ただけであり、これで底打ち→上昇相場と考えるのは早計だろう。**初戻りは売りのポイントを提供しに行っているだけであろうと見ている。**

なお一代の推移は、以下のとおり。

東京灯油一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2014 年 12 月	¥81,340	5 月 26 日	¥85,050	6 月 23 日	¥70,390	10 月 17	¥75,180

						日	
2015 年 1 月	¥84,420	6 月 26 日	¥84,530	6 月 26 日	¥70,470	10 月 17 日	¥75,330
2015 年 2 月	¥82,900	7 月 25 日	¥83,990	7 月 31 日	¥70,530	10 月 17 日	¥75,260
2015 年 3 月	¥81,660	8 月 26 日	¥82,510	9 月 4 日	¥69,420	10 月 17 日	¥74,150
2015 年 4 月	¥79,820	9 月 26 日	¥80,830	10 月 1 日	¥67,730	10 月 17 日	¥72,420
2015 年 5 月	**¥70,670**	**10 月 27 日**	**¥72,140**	**10 月 31 日**	**¥69,720**	**10 月 28 日**	¥71,980

10/31 現在の業者間転売価格は、75,250 円（税抜き）と**前週比 250 円安**。今週もスポット相場は続落であるが、定期市場が反騰した事により価格差はなくなった。

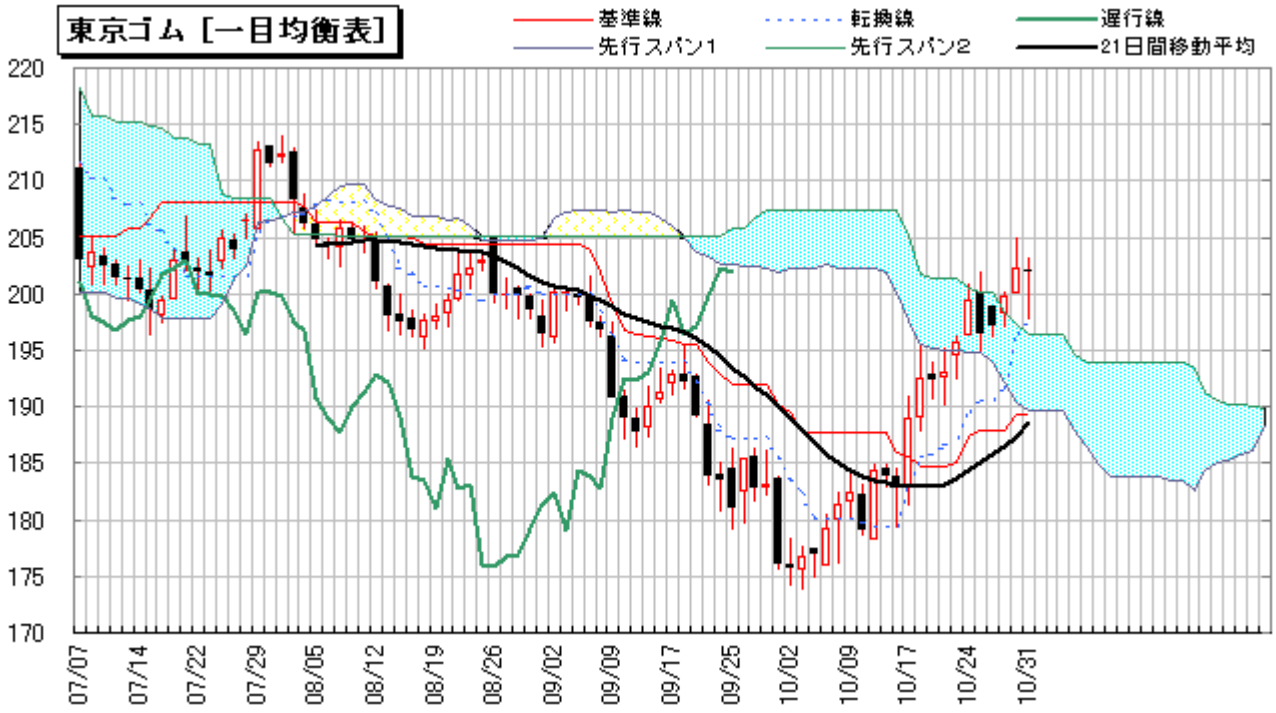
10/25 現在の灯油在庫は、前週比 1.2 万 kl 増の **309.7 万 kl**。**前年同期比では 13.2 万 kl 少ない状態**である。シーズン前の適正在庫である 300 万 kl の在庫は確保完了であり、前年同期比ではまだ若干少ないものの品薄状態は解消である。需給には何ら問題は無い。

他油種の在庫は、そのジェット燃料が前年同期比で 10.5 万 kl 多い。軽油は 2.3 万 kl 少ない、重油は 13.9 万 kl 多いという状況である。

全体として、国内需給に不安はないと言って良いだろう。つまりは為替要因等の外部要因、原油相場の動向等は材料となるが、石油製品相場独自の材料は無いと見るのが正解だ。

結論として当方の相場観は、戻り売りの好機が接近しているものと考える。原油相場が今とは全く違った買い材料が出て反転しない限り、買い相場には変化しないと考えておくのが良いだろう。

〔ゴム〕



今週のゴムの値動き

	10 月限（当限）	前日比	3 月限（先限）	前日比
10 月 27 日	187.6	2.8	196.4	−3.1
	11 月限（当限）	前日比	4 月限（先限）	前日比
10 月 28 日	185.0	0.5	197.3	
10 月 29 日	188.2	3.2	199.5	2.2
10 月 30 日	194.5	6.3	202.0	2.5
10 月 31 日	192.6	−1.9	202.1	0.1

先週号においては『チャートは逆三尊の底入れ～反騰～次々と上値抵抗線をブレイク中となっている。最終的には引き付けての売りが良いと考えているものの、安易な値頃感で売るのは危険だろう。売り線が出るのを待ちたい』とコメントした。

今週の相場展開は、週末に掛けては **200 円台を固めるような動き**となった。高値は **204.9 円（10/30）**であり、先物 2 本が一代高値の更新である。

はっきり言って、170 円そこそこの価格で大底を打ったのかどうかは、当方にはまだわからない。しかし期近の推移まで含めれば“半値、8 掛け、2 割引”を示現してしまった相場であり、**185 円を超えた辺りからは逆三尊底完成の底入れはコメントして来ていた**わけである。

現在は完全に一目均衡表の雲の上に出ている格好で、すでに 30 円上がっている相場だがチャートは買いである。**だが「株は買い、商品は売り」という全体像を考えると、買いで取ろうという気も全くない**わけであり、チャートが売りを示唆するまでは手出し無用というのが当方の考え方である。

買いが好きな人は買ったら良いだろうし、そういう人なら 185 円台で買っているだろう。15 円利が乗って喜んでいるかもしれないが、当方には関係ない。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京ゴム一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2014 年 10 月	203.2	4 月 24 日	216.8	6 月 23 日	163.6	10 月 2 日	**187.6**
2014 年 11 月	208.4	5 月 27 日	219.5	6 月 23 日	168.0	10 月 1 日	192.6
2014 年 12 月	218.6	6 月 25 日	220.0	6 月 26 日	168.8	10 月 2 日	194.0
2015 年 1 月	206.3	7 月 25 日	213.9	7 月 31 日	171.6	10 月 2 日	195.1
2015 年 2 月	204.9	8 月 26 日	204.9	8 月 26 日	173.2	10 月 2 日	197.9
2015 年 3 月	184.5	9 月 25 日	**203.8**	**10 月 30 日**	173.8	10 月 3 日	200.7
2015 年 4 月	**198.9**	**10 月 28 日**	**204.9**	**10 月 30 日**	**196.0**	**10 月 28 日**	202.1

当先のサヤは、11 月限 192.6 円～4 月限 202.1 円で **9.5 円の順ザヤ**である。順ザヤ幅は縮小した。

10/31 現在の輸入採算価格は、11 月積みで 208.7 円。東京市場 11 月限は 192.6 円であるため、**16.1 円の下ザヤである**。通常は 10 円程度の下ザヤであるため、**割安である**。

タイ産地の集荷量は、一日当り 110～140 トン台。若干回復した。

国内営業倉庫在庫は、10/20 現在で 563 トン減の 1 万 1,956 トン。**15 旬連続の減少**である。ただし現在の適正在庫は 7,000 トン～8,000 トンと言われており、1 万トン以下にならないと少なくなったとまでは言えない。

しかし 15 旬も連続で減少しているというのが、強材料視されているのかもしれない。

上海ゴム在庫は、10/31 現在で前週比 2,285 トン増の 17 万 3,792 トン。10/24 分も 4,138 トンの増加であったため、5 週連続の増加である。国内は徐々に減り始めているが、中国はまた増加し始めたという事である。

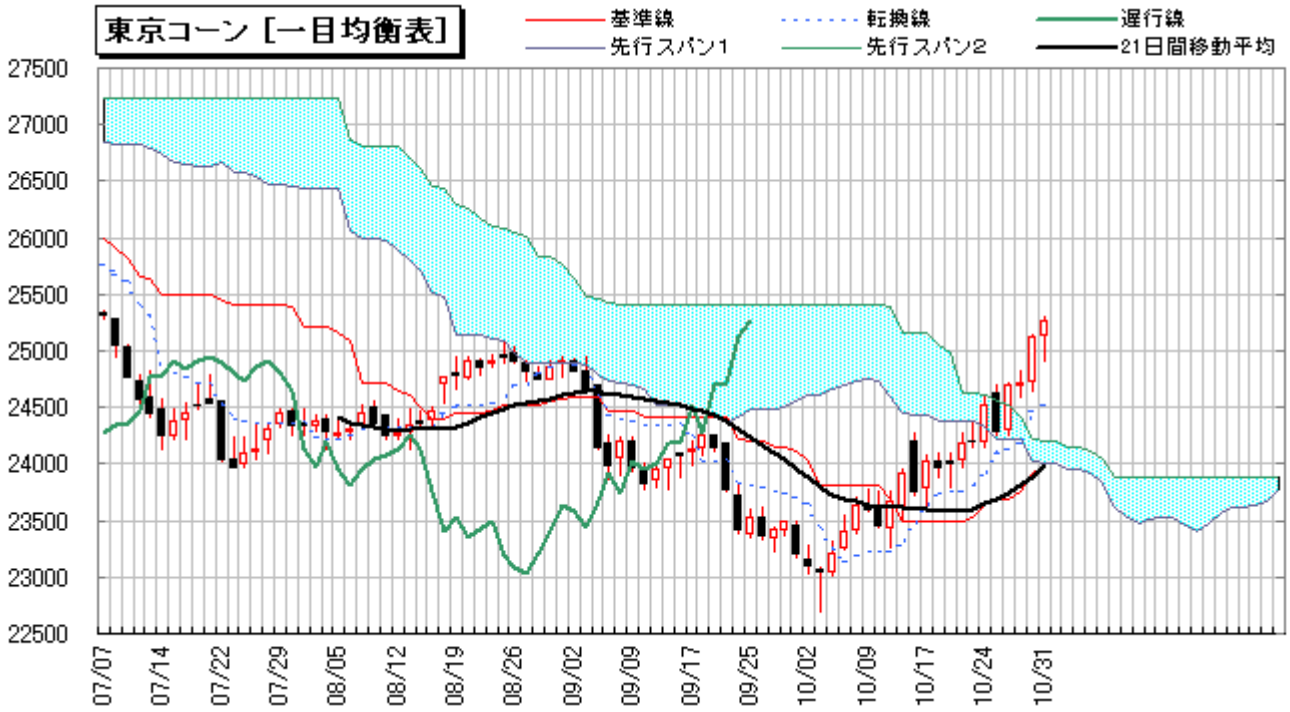
上海ゴム価格は、13,000 元台半ばまでは戻してきた。これは 9 月半ばの水準であり、国内で言うと 190 円台半ば辺りである。

ちなみにだが、対ドルでの円安・円高はゴム相場には関係ない。対ドルで円安だから上がると思っている人もいるかもしれないので、その点は指摘しておく。ゴムは東南アジアからの輸入であり、タイバーツ、インドネシアルピアなどの為替相場を見ないといけない。

もちろんタイバーツに対してもこのところ円安になっているのだが（1 バーツ＝3.1～3.2 円が 3.4 円台まで円安となっている）、それが上海以上に日本が上がっている原因なのかもしれぬ。

結論として当方の相場観は、まだチャートは買いを示唆しているので売れない。だが本格的な上昇相場になっているとは思っていないので、当方は買わない。

〔穀物〕



今週のコーンの値動き

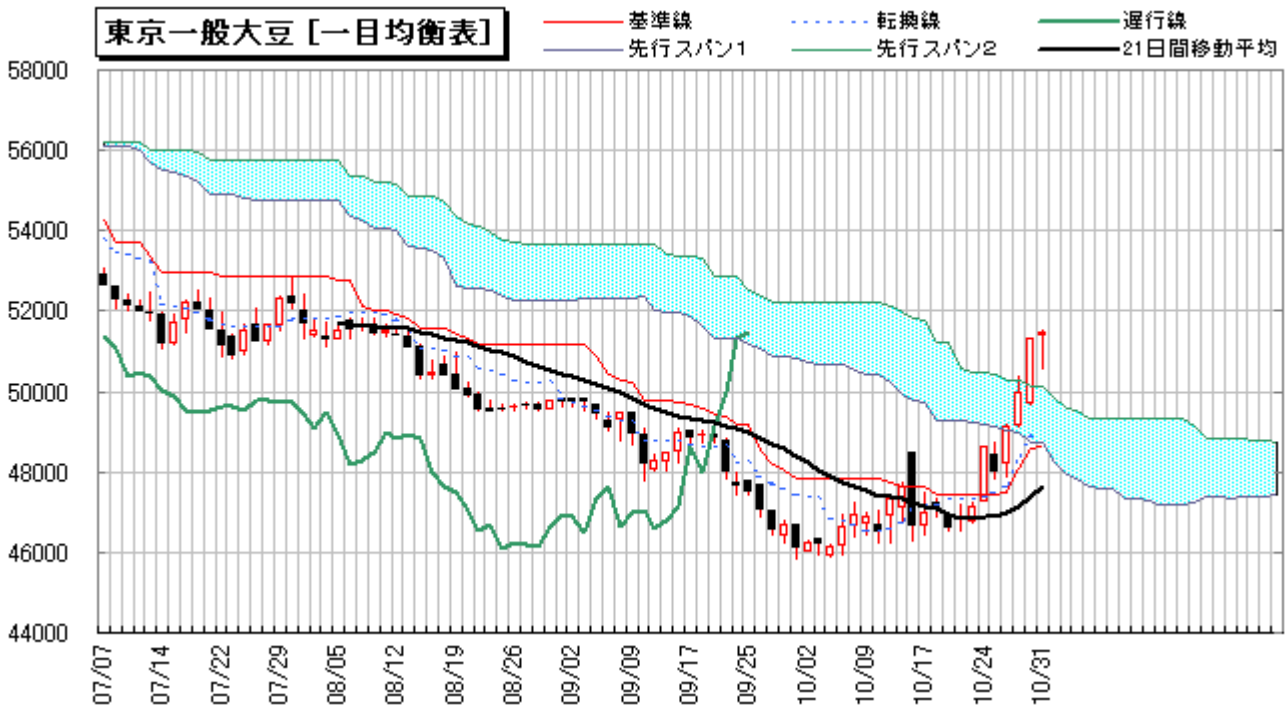
	1月限（当限）	前日比	11月限（先限）	前日比
10 月 27 日	¥22,720	−180	¥24,260	−300
10 月 28 日	¥23,050	330	¥24,660	400
10 月 29 日	¥23,070	20	¥24,720	60
10 月 30 日	¥23,440	370	¥25,130	410
10 月 31 日	¥23,590	150	¥25,260	130

東京コーン一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2015 年 1 月	¥25,970	12 月 16 日	¥27,900	4 月 2 日	¥20,950	10 月 3 日	¥23,590
2015 年 3 月	¥26,430	2 月 17 日	¥28,370	4 月 2 日	¥21,580	10 月 3 日	¥24,160
2015 年 5 月	¥28,330	4 月 16 日	¥28,490	4 月 30 日	¥21,130	10 月 3 日	¥24,860
2015 年 7 月	¥26,590	6 月 16 日	¥26,870	6 月 23 日	¥22,460	10 月 3 日	¥24,970
2015 年 9 月	¥24,690	8 月 18 日	¥25,080	8 月 25 日	¥22,680	10 月 3 日	¥25,030
2015 年 11 月	¥24,200	10 月 16 日	**¥25,300**	**10 月 31 日**	¥23,570	10 月 17 日	¥25,260

10/27 現在の**収穫率は 46%**で過去 5 年平均の 65%には届いていない。ただし作柄の優～良は 74%と引き続き良好であり、大豊作は確実な状況。

10/28 現在の CFTC 発表のファンドの建玉報告は、前週比 2 万 9,000 枚増の 15 万 5,300 枚のロング。3 週連続の増加である。



今週の大豆の値動き

	12 月限(当限)	前日比	10 月限(先限)	前日比
10 月 27 日	¥49,500	−500	¥48,000	−500
10 月 28 日	¥49,210	−290	¥49,120	1120
10 月 29 日	¥51,920	2710	¥50,020	900
10 月 30 日	¥52,190	270	¥51,310	1290
10 月 31 日	¥51,920	−270	¥51,450	140

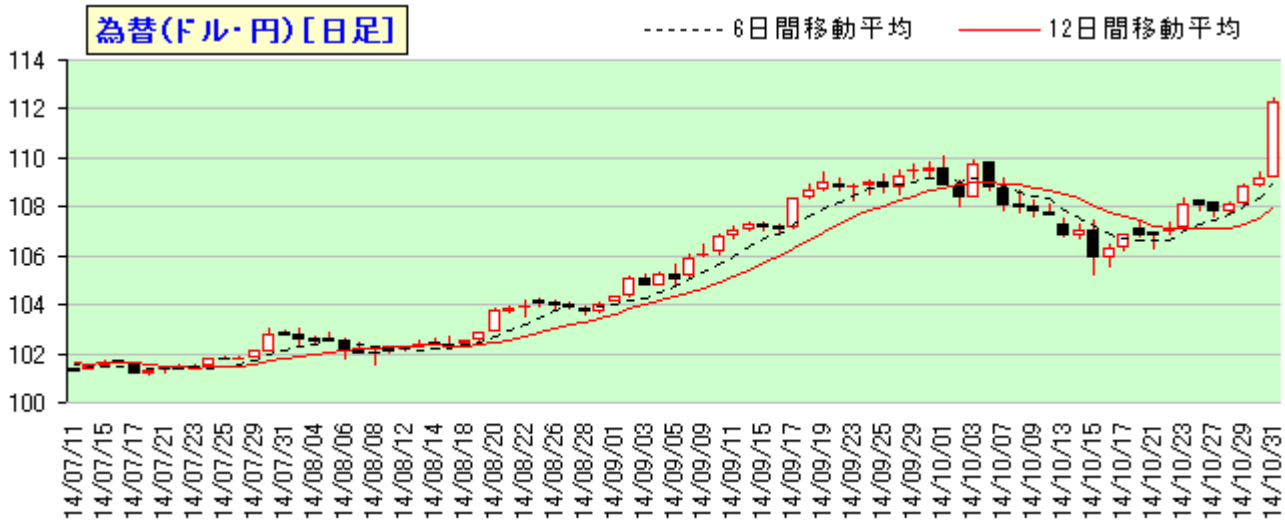
東京一般大豆一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2014 年 12 月	¥56,500	12 月 16 日	¥57,670	12 月 30 日	¥46,620	10 月 14 日	¥51,920
2015 年 2 月	¥54,530	2 月 17 日	¥57,640	4 月 30 日	¥47,200	10 月 16 日	¥52,770
2015 年 4 月	¥56,800	4 月 16 日	¥57,730	4 月 30 日	¥47,630	10 月 16 日	¥52,300
2015 年 6 月	¥53,850	6 月 16 日	¥54,950	6 月 27 日	¥46,110	10 月 6 日	¥52,920
2015 年 8 月	¥50,700	8 月 18 日	**¥52,600**	**10 月 31 日**	¥45,810	10 月 1 日	¥52,400
2015 年 10 月	¥48,490	10 月 16 日	**¥51,500**	**10 月 31 日**	¥46,220	10 月 16 日	¥51,450

10/27 現在の**収穫率は 70%**であり、例年の 75%に接近中。作柄の良～優は 73%と大豊作は確実。

CFTC 発表のファンドの建玉報告では、10/28 現在で前週比 7,400 枚売りの 700 枚のショート。1 週だけで途転売りに再び転換である。

〔為替・株式〕



ドル/円相場は、日銀バズーカで一気に 112 円台まで円安へ。110 円→105 円までの押しの倍返しなら、ズバリ 115 円が目標となるだろう。

ユーロ/円相場も、140 円台まで一気に円安である。しかしこれはまだ 9 月の円安は抜けておらず、欧州経済の情勢を考えればこのまま円安が進行するとは思えないのだが、さて？

円安、円安と騒ぐが、ドルは対ユーロでもやはり強く、QE を終了させた米国は強いと見るのが妥当なのかも。来週の雇用統計次第では、一段のドル高が進む可能性もあるだろう。

なお来週の主な予定は、

3 日（月）**文化の日祝日で休場**、中国非製造業 PMI（10 月）、中国 HSBC 製造業 PMI 改定（10 月）、
米自動車販売統計・ISM 製造業景況指数（10 月）

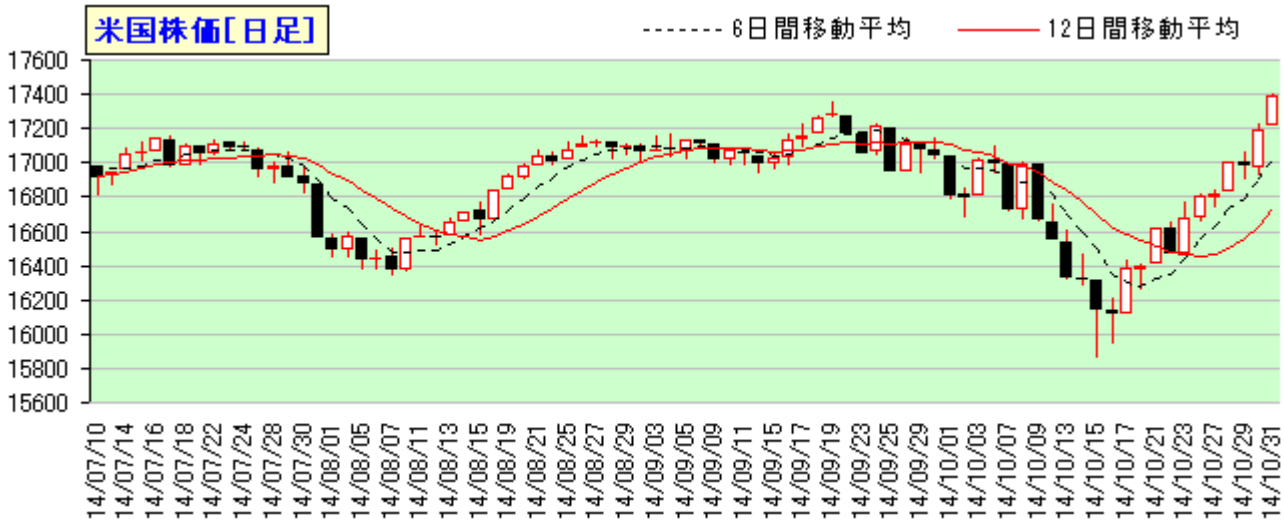
4 日（火）欧州委員会 経済経済見通し、米製造業新規受注（9 月）、**米中間選挙**

5 日（水）黒田日銀総裁講演、中国 HSBC サービス業 PMI 改定（10 月）、
ユーロ圏小売売上高（9 月）、米 ADP 雇用者数・ISM 非製造業景況指数（10 月）、

6 日（木）日銀議事録、景気動向指数（9 月）、**BOE 政策金利**、
ECB 政策金利・ドラギ ECB 総裁記者会見、米新規失業保険申請件数（1 日までの週）、
ユーロ圏財務相会合、OPEC 世界の石油見通しに関する年次報告

7 日（金）**米雇用統計（10 月）**、EU 財務相理事会、

などとなっている。



週末の NY ダウは、前日比 195 ドル高の **17,390 ドル**での終了。史上最高値の更新である。

シカゴ日経平均先物は、大証終値比 580 円高の 17,070 円での終了。こちらも一気に年初来高値の更新である。連休明けに 17,000 円突破ならば、16,000 円台には僅か半日しか居なかった事となる。（今の相場をみると、明日が休みなのが残念だ）

このレポートは、私が個人的な判断で書いたものです。
内容の責任はすべて私に帰するものですが、取引に対する利益を保証するものでは在りません。（当たり前ですが念のため）

ひげの中ちゃん相場情報

中田幸一郎

メールアドレス info@higenaka.com